

## 学校を返せ ふる里を返せ

松本佳充

3月11日の東日本大震災発生時に私は、東京電力福島第一原発から3.5 kmに位置する双葉高校に勤務し2.8 kmのテニスコートで部活動中でした。突然、今まで経験したことがない震度6強という恐ろしく大きな揺れが長時間私達を襲いました。生徒達は余りの恐怖にコートに座り込み顔を見合わせていました。

大地震直後の双葉町内は、完全に倒壊した建物があちこちで見られ、一部は道路を塞いでいました。道路は至る所で陥没や隆起が起き段差や亀裂のため通行不能になっていました。余りの惨事に言葉を失い、青ざめた町民の皆さんが肩を寄せ合い立ちすくんでいました。まるでこの世の世界とは思えない光景が私の目の前に広がっていました。更に、大地震と巨大津波によって壊滅的な大打撃を受けた近隣の市町村を誰もが予期しなかった福島第一原発事故が襲いかかってきました。そして、混乱のまただ中、突然の避難命令が出されました。そのため翌朝からの津波被災者の救助が出来なくなりました。もしかして助けられる命があったのではないか、見殺しにしてしまったのではないかと多くの人が思いました。特に身内の人は、今もやりきれない気持ちで過ごしています。

突然の避難命令のため生徒達はさよならも言えず全国各地に避難していきました。そして、3月のまだ寒い体育館等での避難生活を始めた生徒もいました。プライベートな空間も時間も無く、食べることもままならない過酷な避難生活です。通える学校があり帰れる家がある。暖かいご飯と風呂と自分の部屋がある。当たり前前の生活が奪われ、それがどれほど幸せであったのかを思い知らされました。

県教委は、当初原発から半径30 km圏内の被災高校8校の生徒を対象に県内に25校のサテライト校を5月中旬より開校しました。被災生徒3,322人中1,822人の生徒がサテライト校に友達を求め、自分の高校で卒業したいとの思いで集まりました。県教委は他の高校と同様の環境で教育が受けられること、入学時のサテライト校で卒業できることを生徒や保護者に約束しました。しかし、その約束は大多数の生徒に対して守られることはありませんでした。

私は、福島南高校の空き教室を借りての双葉高校サテライト校に勤務することになりました。制服も教科書もノートも鉛筆一本さえもない教育環境からのスタートでした。あくまで他校の空き教室や準備室を借りているため教室数が足りず狭く、また生徒も教師も気を遣い肩身の狭い思いをしました。特に職業

高校では普通高校に施設設備が無いためバスで他校へ授業に出かけたりしました。それでも空き授業が出たり、教員数や教室数が足りず生徒の進路に合わせた授業が困難であったりしました。また、ほとんどの学校行事・生徒会行事・部活動が中止または、縮小となりました。当たり前前に教育を受ける権利さえ奪われていきました。また、県内外の高校に転校した生徒の中には、新しい環境に馴染めなかったり、放射線への無理解から偏見や差別にあたりした生徒達もいました。傷ついた生徒達は心を癒すかのように母校のサテライト校の友達を求めて県内外から戻って来ました。

一年後に県教委は、27校あったサテライト校を生徒や保護者の声を全く無視して12校に集約してしまいました。避難後、家族の生活の拠点も避難地域に定まりつつある時でした。集約後のサテライト校を選択すれば家族と離ればなれになり、残ることを選択すれば友達と別れ他校へ転校せざるを得なくなります。どちらにせよ辛い選択となりました。原発事故によって破壊された生活が今度は県教委によって、再度破壊されてしまいました。

昨年度(26年度)の卒業生からは、被災地の母校である本校舎には一度も入ることなく仮設校舎に入学し仮設校舎から卒業していきました。27年4月から広野町に原発事故からの再生を担う人材の育成をうたい文句に「ふたば未来学園高」が開校しました。しかし、その一方で双葉郡内にあった5校(津島・浪江・双葉・双葉翔陽・富岡)のサテライト校は入学生の募集を停止することになりました。サテライト校の開校から6年の月日が経ちました。近隣の町村と共存して長い歴史を刻んできた高校が、29年3月に最後の三年生が卒業し、4月にはサテライト校のまま休校となります。仮設校舎は取り壊され、間借り教室は返さなければなりません。帰れるふる里も無ければ戻れる母校も無くなってしまいます。避難した多くの双葉郡内の生徒達は、原発事故以来ふる里に一度も戻っていません。双葉高校に残してきた教科書・制服・ユニフォーム・シューズ・ラケット等の思い出の品々も被曝線量が高く未だ持ち出せずにいます。

原発事故によって生活を破壊され思い出さえも奪われてきました。多感な青春期を原発事故に巻き込まれ翻弄された生徒達の心の傷は深く、癒えることはありません。学校を返せ。ふる里を返せ。